

実験済み動物 不法投棄

能勢山中に1000体

水質汚染の恐れ 下流住民ら不安

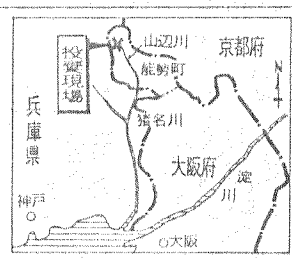
府警が強制捜査へ

大阪府豊能郡能勢町の山中の沢に、薬品開発のために動物実験に使用した約千匹もの犬やウサギなどの死体が大量に不法投棄されていることが二十日、わかった。死体を入れていた袋などから、大阪府下に研究所がある医薬品会社が実験に使った動物とみられ、数回にわたって捨てられたらしい。大阪府警豊能署は二十一日にも、この医薬品会社に実験動物の処理を依頼された運送業者を呼んで廃棄物処理法違反の疑いで強制捜査に踏み切るが、沢の下流約三キロにキャンプ場や簡易水道の水源があるため実験に使用した薬品や細菌による水質汚染の恐れも出ており、下流住民らに不安が広がっている。

不法投棄がされていたのは、約五十坪下の沢にビニール袋に入れて捨てられていた。現場付近は、ふたんから租大ゴミや産業廃棄物の不法投棄が後を絶たないが、今年夏死体が散乱していた。

その後も、先月中旬に約百匹が捨てられるなど、同じ場所へ不法投棄が相次いだため、豊能署に連絡。同署は池田署などと合同で捜査に乗り出した。

これまでの調べでは、死体



にしているが、同署は今回の不法投棄は医薬品会社の下請け業者が処理場に運ばずに捨てていた疑いが強いとみて、一両日中にもこの業者に出頭を求め、取り調べるとともに、医薬品会社についても死体の処分について監督責任がないかなどについて調べる。

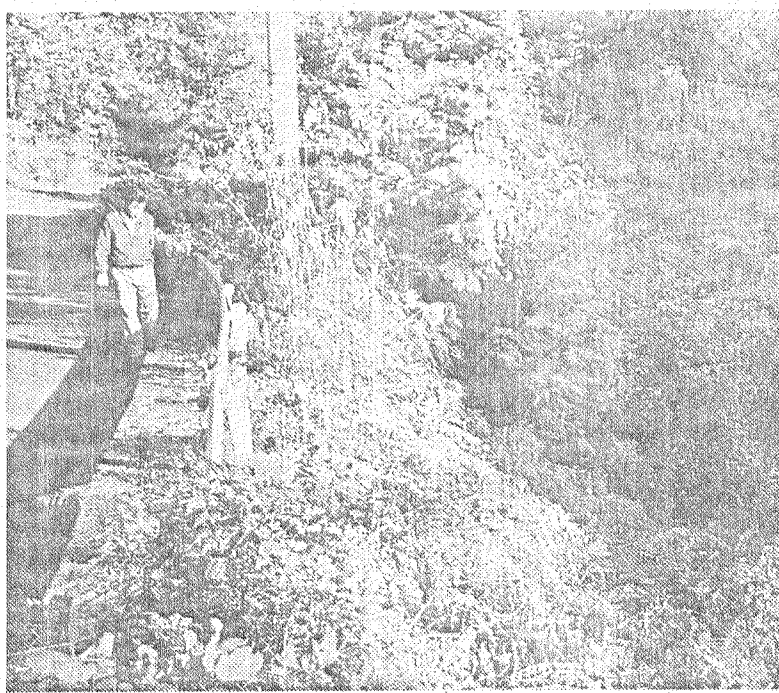
また、実験の際に、これらの動物に投与した薬品や細菌類の内容についても事情を聴くことにしているが、この医薬品会社では、内臓疾患の治療薬などを開発、製造しており、犬やウサギなどにもこれらの研究にかかわる薬品類が投与されていると見られる。

不法投棄があった沢は、付近の山辺川、一庫ダムを経て猪名川に流れ込んでおり、現場から約三キロ下流にはキャンプ場があるほか、川の近くに

掘った井戸が地区の簡易水道の水源になっている。

この簡易水道は約三百戸が利用。同地区に住む農業、Aさんなどは「動物の死体がたくさん捨てられていたのは聞いていたが、まさか薬品を投与された実験動物だったとは」と話している。

先月十二日には投棄されたばかりの死体約百体が回収されたが、町では「あまりに悪質なので警察にお願いした。簡易水道の定期的な水質検査では異常は出ていないが、どんな薬品や細菌が使われていたか判明す、定期検査で検出できるものなのかどうかわからない」と困惑している。



実験に使われた動物の死体が大量に捨てられていた「はらがたわ峠」付近の山中＝大阪・能勢町山辺で